

戦争と暴力に対する神の視点

「主は地の果てまで戦争をやめさせ、弓を碎き、槍を断ち、戦車を火で焼かれる。」

詩篇46篇9節

私たちは21世紀に入った。世界情勢は急速に悪化している。私たちが信頼してきた人々、私たちが知り、享受してきたもの、さらには当たり前のように享受してきたものが消え去ろうとしている。今日、世界の多くの人々は、常に恐怖の中で暮らしている。世界の緊張がかつてないほど高まっていることを、私たちは目の当たりにしている。紛争、戦争、テロ行為が見出しや報道を埋め尽くしている。世界は熱狂に巻き込まれ、多くの人々が自分たちの存在そのものを恐れている。地球上の善と悪の勢力間の闘争が進行中なのだ。暴力には暴力をと、武器を求める声が上がっている。何が何でも「戦いに参加せよ」という大きな圧力が個人にかかっている。

人類は一般的に、神に助けを求めるのではなく、世界に平和をもたらすための独自の方法に頼っている

。このような状況の中で、神の子は多くの重要な決断を迫られている。暴力、戦争、殺戮に関して、聖書は何を教えているのか。戦争や暴力に反対する根拠として、聖書をどのように用いることができるのか。この後の論考が、これらの重要な疑問に対する答えを読者に示す一助となれば幸いである。

旧約聖書における神の記述

民数記11:10,33にあるように、「主の怒り」や「主の怒り」といった戦争的な言葉で、神は聖書の中でしばしば描写されている。天の父は"焼き尽くす火"のようであり、"生ける神の手に落ちることは恐るべきことである"。(申命記4:24、ヘブル10:31) 。"わたしには復讐と報いがある" (申命記32:35) 。(申命記32:35) 。主は"嫉妬深い神"であり、"戦いの人"であり、定められた時に国々を裁くために立ち上がる。出エジプト20:5; 15:3

イスラエルの戦争の男たち

イスラエル民族に対する神の扱いにおいて、イスラエル民族は軍隊によって数を数えるように指示されたことがわかる。「主はシナイの荒野で、会堂の幕屋でモーセに語られた、...彼らがエジプトの国から出た後、こう言われた。『イスラエルの子らのす

すべての会衆を、その家ごとに、その先祖の家ごとに、その名の数とともに、その国勢調査によって、すべての男子をとりなさい。民数記1:1-3

イスラエルの民は、約束の地を手に入れようと奮闘するとき、しばしば戦いの男たちに率いられた。主の軍勢の隊長」であったヨシュアは、エリコを滅ぼす方法を天使から教えられた。(ヨシュア記5:14、6:2-5)。トランペットが吹き鳴らされ、神の介入があり、町の城壁は "平らに崩れ落ち"、"完全に破壊された"。ヨシュア記6:20,21

神はその民に戦い方を教えられた。私の手に戦いを、私の指に戦いを教えてくださる：わたしの善、わたしの砦、わたしの高い塔、わたしの救い主、わたしの盾、わたしの信頼する方、わたしの下にわたしの民を従わせる方。" と。詩篇144:1,2

神は民のために戦われる

エジプト王パロとその軍勢（馬と戦車）に追われていた時、神はその民のために戦われた。「パロが近づいたとき、イスラエルの子らが目を上げると、見よ、エジプト人が彼らの後を行進していた。...モーセは民に言った、「恐れるな、立ち止まり、主が

今日、あなたがたに示される救いを見よ。主はあなたがたのために戦われる。(出エジプト記14:10-14)。海の水は神の力によって裂け、イスラエルの軍勢は救い出され、エジプトの軍勢は滅ぼされた。

主はモーセに語られた、『イスラエルの子らをミデヤン人から討て』と言われた。そして彼らはミデヤンの王たちを殺した。"民数記31:1-8

「あらゆる目的に適った時

旧約聖書のもう一つの聖句は、伝道者の書3:1,3,8にある。"天の下のすべてのものには時があり、すべての目的には時がある。多くの人々がこの聖句を、殺戮や戦争を正当化するために用いてきた。しかし、この聖句をより詳しく調べてみると、ソロモンが過去の多くの経験や観察の結果として書いたものであることがわかる。ソロモンは社会的な見地から主張しているのだ。ソロモンは、人々があらゆることに懸命に取り組んでいるのを見て、賢明にもこう尋ねている。私は、神が人の子らに与えられた労苦を見た。

ソロモンは伝道者の書での議論をこう締めくくっている：神を畏れ、その戒めを守りなさい。神を畏れ

、その戒めを守ること、これが人間のすべての義務である。伝道者の書**12:13,14**

愛の神

聖書が語っているように、神が愛の神であるなら、イスラエルの子らに対する敵の「滅ぼし尽くせ」という命令をどう理解すればいいのだろうか？(1ヨハネ**4:8,16**；申命記**12:2**；**20:17**)。イスラエル民族が神の契約の民であったことを忘れてはならない："わたしは、地のすべての家族の中で、あなただけを知っている。"**アモス3:2**

イスラエルの子らが神に選ばれた民であったことは、聖書の中ではっきりと教えられている。預言者エレミヤの言葉に注目しよう：「彼らがわたしの民となり、名となり、賛美と栄光となるためである。わたしは "イスラエルの全家族の神となり、彼らはわたしの民となる"。(エレミヤ**13:11**；**31:1**)。イスラエル**12**部族の父ヤコブに対して、神はこう言われた。"あなたとあなたの子孫のうちに、地のすべての家族が祝福される"。創世記**28:14**

カナンの地は、何世紀も前にアブラハムの「子孫」、つまりイスラエルに約束されていた。(創世記

11:31; 12:5-7)。しかし、ヨシュアの指導の下、イスラエル人が正当な相続者として到着する前に、他の民族がその地に定住していた。イスラエルがカナン¹の約束の地を所有するようになったとき、その地にはひどい状況が存在していた。その地を占領していたペリシテ人、アモリ人、その他の人々は非常に墮落しており、あらゆる形の偶像礼拝に従事し、彼らの偽りの神々と宗教に関連して人身御供を捧げていた。(申命記18 : 9-14)。彼らの邪悪さと墮落がこのようなレベルに達したので、神はその知恵と正義において、彼らを滅ぼし、神の指示の下、より高度な文明に到達する民をその地に置くことが最善であると考えられた。

こうして、神はイスラエルの民にカナンを征服するよう指示した。それは神の許可と指示なしになされたことではない。約束の地に入る前に、主はイスラエルの民に律法の体系を定めておられた。彼らはその掟に背けば罰せられることを理解していた。その掟のひとつが、「殺してはならない」というものだった(出エジプト記20:13)。(出エジプト記20:13)。イスラエルの隣人たちは絶えず彼らに戦争を仕掛けてきたが、イスラエルが神に従うなら、神は彼らを助けてくださった。しかし、もし彼らが神に従

わないなら、神は彼らの敵に成功させるであろう。
レビ記26:3,6-8,14,17

一時的な状況

旧約聖書の後半、神は預言者たちを通して、現在の悪、憎しみ、戦争、貧困の時代は一時的な状況であることを明らかにされた。神の計画は最終的に、すべての戦争、憎しみ、絶望、貧困をなくす。これは、主の王国（ ）が築かれるときに起こる。預言者イザヤを通して、神はこの時についてこう言われた：「国民は国民に対して剣を振り上げることはなく、もはや戦争を学ぶこともない。「彼らは、わたしの聖なる山のすべてにおいて、傷つけることも滅ぼすこともない。イザヤ2:4; 11:9

新約聖書の戦争観

新約聖書における神の教えを考えてみよう。天の父は今、イスラエルという国に対してこれまでとは異なる対応をとっており、そのすべては御子イエスから始まっている。そのすべては、御子イエスから始まるのである。(ヨハネ1:1)。この章の後半で、ヨハネはこう書いている。"みことばは肉となって、私たちの間に住まれ、私たちはその栄光を見た。

(14節)。「彼は世にあって、世は彼によって造られたが、世は彼を知らなかった。彼は世におられ、世は彼によって造られたが、世は彼を知らなかった。(10,11節)。自分のもの "とはイスラエル民族のことである。聖句にある "彼は軽蔑され、人々から拒まれた "のとおりに、彼は彼らに拒まれたのである。イザヤ書53章3節

ピラトが主の裁判に集まったユダヤ人たちに尋ねた。彼らはみな、彼を十字架につけよと言った。(マタイ27:22)。マタイによる福音書27章22節にあるように、ピラトは彼に何の落ち度もないと判断し、この問題から手を洗った。そして、民衆はみな答えて言った、"彼の血は、わたしたちの上にも、わたしたちの子らの上にもあるように"。マタイによる福音書27章25節

イエスの宣教を通して、イエスはイスラエルを助けたいと切望された。「預言者たちを殺し、あなたに遣わされた者たちを石で打つエルサレム、エルサレムよ、雌鳥がその子をその翼の下に集めるように、わたしは何度あなたの子らを集めようとしたことか！見よ、あなたがたの家は荒れ果てたままである」。(ルカ13:34,35)。神の独り子を拒絶したために、イスラエルは長い間求めていたものを得ることができなかった。彼らは、神の導きの下で継続的な祝

福と繁栄を得ることを望んでいたのだ。「では、どうなのか。今日に至るまで、神は彼らにまどろみの霊を与え、目は見させず、耳は聞かせなかった。」

ローマ11:7,8

私たちを教える実例

私たちは今、再び聖書を使って、旧約聖書における神とイスラエルとの関係の目的について言及する。

「兄弟たち、わたしは、あなたがたに、わたしたちの先祖（イスラエル人）が皆、雲の下におり、皆、海を通ったことを、知らないでいてもらいたくないのです。1コリント10:1,6

この記録から、私たちは警告を受け、イスラエルの失敗から学ぶ機会を得て、神に仕えるために最善を尽くすことができる。自然のイスラエルは、アブラハムに約束された "あなたのうちにあって、地のすべての家族は祝福される"（創世記12：3）という約束の一部を無条件で受け継ぐことはなかった。（創世記12:3）。神がイスラエルと契約を結んだとき、彼らが律法を守るなら、永遠の命を得ることができるという理解だった。そうすれば、アブラハムとの約束を受け継ぐことができ、"地のすべての家族"を祝福する特権が与えられる。

神の約束を受け継ぐ者

使徒ペテロの「約束は、あなたがたに、また、あなたがたの子孫にある」という言葉は、主のしもべアブラハムの子孫としてのイスラエルとの契約を含む、主がイスラエルと交わされたすべての出来事と完全に調和している。(使徒2:39)。パウロが "私たちの十二部族は、昼も夜も神に仕え、来ることを望んでいます。"(使徒26:7)と言ったように、彼らはイエスの時代（ ）にもこの希望を持っていたのです。(使徒26:7)。イスラエルが国家としてアブラハムの約束を受け継ぐに値しないことが証明されたとき、象徴的に言えば、イスラエルは断絶され、その代わりに異邦人が接ぎ木される機会が与えられた。異邦人たちは、今や個人として、「オリーブの木の根と太さ」、すなわちアブラハムの約束にあずかることができるのである。ローマ11:17

その時から、ユダヤ人であれ異邦人であれ、キリストを受け入れた者だけが、アブラハムの霊的種子の一員として、「約束に従った相続人」とされたのである。(ガラテヤ3:29)。「建てる者たち(国としてのイスラエル)が拒んだ石(イエス)は、隅のかしらとなった。マタイ21:42,43

イスラエルは他国の祝福に用いられる準備が整っていなかったので、神との契約の下にあった地位はなくなり、「祭司の王国、聖なる国民」という約束もなくなった。(出エジプト記19:6)。出エジプト記19:6) それは、霊的なイスラエル、すなわち「王家の祭司職、聖なる国民に与えられた」のである。(第1ペテロ2:9)。この民族()は、他のすべての民族とは別個のものであり、神によって地上のすべての民族から集められ、"御名のための民"であると言われている。使徒15:14

暴力と戦争の拒絶

私たちの主イエス・キリストは、新約聖書の教えを変える鍵であることは間違いない。イエスは、世に知られ受け入れられるようになった暴力と戦争の概念を否定された。その教えと模範によって、イエスはより高い基準を私たちに示した。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うことである。(ヨハネ13:34,35)。これは、神との契約のもとでユダヤ人に与えられたものより高い戒め、高い律法である。キリストによって与えられた律法は、キリスト者の契約の律法であり、愛の律法である。キリストの学

12 夜明け

校に入り、霊的イスラエルの一員となることを望んでいるすべての人に与えられている。イエスは愛の戒めをこのように要約された：「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。マタイ 22:37,39

罪の結果としての暴力が、今日の世界で横行している。暴力はさまざまな形で存在し、ほとんどすべての文化に何らかの形で関与している。罪の生みの親であるサタンは、"ほえたける獅子のように、・・・
・ 食い尽くす者を求めて "この世をさまよっている。(第1ペテロ5:8)。彼は "この世の神 "であり、"信じない者の心を盲目にした" (2コリント4:8)。(第2コリント4:4)。サタンの影響により、現代社会には暴力が蔓延している。

今日、私たちは家庭内、隣人同士、学校、教会、職場、さらには見知らぬ人々の間でも暴力を目にする。これらすべてはイエスの教えに反している。イエスは暴力と、争いを解決するための個人的な力の行使を否定された。たとえば、ヨハネによる福音書18章10節、11節で、イエスはペテロが大祭司のしもべに対して剣を抜き、そのしもべに怪我を負わせた

ことを咎められた。イエスはペテロに「剣を鞘に納めなさい」と言われた。

弟子たちが主のために武力や暴力を用いたという話は二度と聞かない。イエスは「天使の十二軍団」を召集することもできたが、そうはされなかった（マタイ26:53）。（マタイ26:53）。イエスは、自分の個人的な幸福のために神の力を使おうとはされなかった。イエスは悩みから解放されるために祈ることはなく、犠牲の一部として喜んで耐えた。キリストに従う者もまた、同じことをすべきなのだ。「キリスト・イエスがあなたがたのうちに持っておられたこの心を、あなたがたのうちにも持っていなさい。ピリピ2:5

敵に対する新しい態度

主はまた、敵に対する新しい態度についても説かれた。「あなたがたに言う、敵を愛し、あなたがたを呪っている者を祝福し、あなたがたを憎んでいる者に善を行ない、あなたがたを侮り、迫害している者のために祈りなさい。（マタイ5:44）。マタイ5:44）。私たちは最初、これは生きるための高い基準だと言うかもしれない。このような愛は、隣人を愛することをはるかに超えている。自分を愛してくれる

人を愛するのは簡単だと言われてきた。しかし、敵を愛するには、敵でさえも私たちの心に悪意を呼び起こすことができないほどの愛に満ちた心の状態が必要である。報復行為や憎悪が入り込む余地はない。

これは悪や不正を認めるという意味ではなく、それに加担しないという意味である。私たちは、弱者や無力な者への抑圧に反対する。今日の世界の多くの人々の考え方は、自己を守るために他者に悪を行うことを正当化することである。私たちは「悪を憎み、善を愛す」べきであるが、敵であっても悪に報いてはならない。(アモス5:15)。神の目の前で罪を犯し、悪を行う者には、その報いがあることを覚えておこう。1コリント3:8

生活の原則

私たちの主イエスは、同情、柔和、憐れみ、純潔、平和を作ることの特徴とする生き方の原則を教えられた。「悲しむ者は幸いである：・・・柔和な者は幸いである：・・・憐れみ深い者は幸いである：・・・心の清い者は幸いである：・・・平和をつくる者は幸いである。(マタイ5:4-9)。主は山上の説教の中で、弟子たち、ひいては私たちを指導するためにこの言葉を語られた。主は私たちが困難な状況に

ある人々に同情し、柔和と自制を実践し、他人を憐れみ、怒りと悪意のない純粋な心を持ち、常に平和をつくり出す者となることを望んでおられる。私たちは常にこれらのことを完璧にできるわけではないが、完全で純粋な意思を持ちたい。主の民は役に立つ者である。「ですから、私たちには機会があるのですから、すべての人に善を行ないましょう。ガラテヤ**6:10**

神に対する心の清さは、平和的に生き、他の人々の平和を促進する努力に現れる。使徒パウロはこう書いている。"あなたがたのうちにある限り、すべての人と平和に生きなさい。"(ローマ**12:18**)(ローマ**12:18**)。このことは、たとえ平和が私たちに返ってこないとしても、私たちが今生きているこの時代に特に必要なことである。

正義の敵は、"彼らの行いが悪であったので、光よりもむしろ闇"を愛する。(ヨハネ**3:19**)。主が求めておられるのは、このような人たちではなく、義の原則に忠実で、迫害されても敵にさえそれを行行使する人たちなのだ。「人々があなたがたをののしり、迫害し、また、わたしのために、あなたがたに対してあらゆる悪口を言うとき、あなたがたは幸いである。天にあるあなたがたの報いは大きいからである

。" (マタイ5:11,12)。(マタイ5:11,12)。使徒ペテロはまた、こうも書いている。"クリスチャンとして苦しむ者があれば、その人は恥じることなく、このために神をほめたたえなさい。(第1ペテロ4:16)。私たちの主は、私たちに個人的な保証を与えてくださる：「わたしは世に打ち勝ったのだ。ヨハネ16:33

クリスチャンの責任

私たちは、神の掟に反しない限り、人間の掟に従わなければならない。しかし、神の掟と矛盾する場合は、クリスチャンは神の掟に従わなければなりません。このことについて、私たちに与えられている戒めに注目してください。「あなたがたは、選ばれた世代であり、王家の祭司団であり、聖なる国民であり、特別な民である。あなたがたは、
、あなたがたを闇からその驚くべき光の中に召してくださった方の賛美を表すべきである。.....愛する者たちよ、見知らぬ巡礼者であるあなたがたに勧めますが、魂と戦う肉の欲望を避けなさい。(1ペテロ2:9,11)。”
私たちは、人よりも神に従うべきです。”使徒5:29

私たちは、天の御父が御心に従うことを非常に重要なこととしておられることを知っている。このことは、イスラエル民族に関する多くの教訓によって示

されている。イエスが教えてくださった重要な原則はこうである：「それゆえ、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。(マタイ22:21)」。さらにこうも言われている：「主のために、人のすべての定めに従いなさい。(第1ペテロ2:13)」。 「貢物は貢物に、習慣は習慣に、.....栄誉は栄誉に.....」 (ローマ13:7)。(ローマ13:7)。これらの原則は、私たちの訓練された良心と神の法律に違反する場合を除いて、すべて適用される。

天の御父は、ご自分の計画と目的に従って、この問題のある現在の世界のすべてを解決しておられる。天の御父は、私たちが御子によって啓示された教えに従ってどのように生きているかを、特に見ておられる。今の時代の激しい嵐は、"すべての人の働きがどのようなものであるかを試す"。(1 コリント3:13)。それは、私たちが生きている間にどのような品性を身につけたかを明らかにする。私たちの信仰は、"金、銀、貴石"として描かれている神の尊い約束の上に築かれるべきである。火による試練に耐えられないような他の材料で、不適切な建て方をしてはならない。使徒は、「木、干し草、切り株」として描かれている人間の理論、方法、伝統に従っ

て建てられたものは、すべて滅ぼされると教えている。

天の父は、すべての国々が、自分たちが世界のすべての問題を解決できると考えるように、自分たちを欺くことを許しておられる。私たちは、平和が長く続くことはなく、新たな紛争が突然起こることを見てきた。このような出来事は、"平和の君"である御子キリスト・イエスが治める永遠の平和の王国のために、神が人類の世界を準備させるために許されたことなのだ。(イザヤ9:6,7)。「御国を来たらせたまえ。みこころが地において行われますように」とイエスは私たちに祈るように教えられた。マタイによる福音書6章10節

結びの言葉

旧約聖書のイスラエル体験において、神はアブラハム、イサク、ヤコブに与えられた最初の約束に関するある目的を達成するために、戦争を許された。これらの紛争のほとんどは、イスラエルの人々に何世紀も前に約束されていた土地に関連していたが、異教徒や邪悪な国々に占領されていた。このような戦争や紛争は神によって許可されたものであり、人間や地上の政府によって許可されたものではなかった。

対照的に、新約聖書では、イスラエルがかつて経験したことは、神に関する限り、その目的を果たした。その目的とは、これらの困難な経験を通して学んだ教訓が、彼らを平和の君であるキリストのもとに導くための「校長」としての役割を果たすことであった。ガラテヤ**3:24**

イエスは暴力や戦争の概念を否定された。イエスは模範を示し、"心を尽くしてあなたの神である主を愛しなさい"という戒めを定め、"隣人を自分のように愛しなさい"と教えられた。(マタイ**22:37,39**)。敵に対するこの新しい態度は、武力、暴力、殺人を否定する。パウロはこう語る。"すべての人との平和と、聖さとに従いなさい。ヘブル**12:14**

まもなく、冒頭の聖句が成就する：「主は地の果てまで戦争をやめさせ、弓を砕き、槍を寸断し、戦車を火で焼かれる。(詩篇**46:9**)。神の御言葉はさらにこう約束している：「しかし、あなたはその城壁を救いと呼び、その門を賛美と呼ぶ」(イザヤ**60:18**)。(イザヤ**60:18**)。戦争やその他の暴力行為によって殺された者はみな、死者の中からよみがえる。(ヨハネ**5:28,29**)。すべての人々は永遠の平和を知り、回復された完全な地球で永遠に調和して生きる機会を与えられる。そのような栄光の結末は

、"世が始まって以来、神がそのすべての聖なる預
言者たちの口によって語られた万物 "の回復の頂点
となる。使徒3:21